

IB インカレ 2021（第 11 回大会）
プレゼンテーションのルール

IB インカレ審査委員会
2021 年 10 月 20 日

今年度の IB インカレは全面オンラインでの開催となります。

プレゼンテーションでは、プレゼン動画を事前に制作いただきます。以下に今年度のオンライン大会のルールを説明します（公式ガイドブック内の説明とは異なる箇所がありますので注意すること）。

1) プレゼンテーションと質疑応答の方式について

- ・ プレゼンは各チームが事前に準備した動画を大会当日に出場者が視聴する方式を採用する
- ・ 15 分間のプレゼン動画視聴後に、10 分間の質疑応答を設ける（合計 25 分）
- ・ 質疑応答は指定する Zoom のルーム内にて、リアルタイム方式で行う

2) プレゼン動画制作のルールについて

- ・ プレゼン動画（以下、動画）は 15 分以内とする
- ・ **動画とパワポスライドのファイルは、以下の Google フォームより 12 月 1 日 21:00 までにチームごとに提出する。**

<https://forms.gle/BPx6etfnKo5AWSy7A>

※ ファイル容量は 500MB 以下とし、動画は MP4 形式、パワポファイルは PPTX 形式とする

- ・ 動画の制作では、対面での通常のプレゼンを再現することを基本とする
- ・ 原則として、動画の撮影では Zoom のレコーディング機能を用いる
- ・ パワポスライドを画面共有しながらスピーカービューで撮影する
- ・ 動画内に別の動画を差し込むこと、効果音等の使用は禁止する
- ・ パワポのスライドショー機能のみを使用可とし、その他の特殊なエフェクトの使用は認めない
- ・ 複数の動画をつなぎ合わせる行為（編集）は認める

3) プレゼン審査項目と配点

予選 (配点 20 点)

1. 適切な言語と非言語表現 (スライド含む) による明瞭さ (6 点)
2. 論理的・一貫性 (結論までが一貫したストーリーとして伝達できたか) (6 点)
3. 質疑応答における回答 (回答内容と時間, 表現の適切性など) (8 点)

決勝 (配点 30 点)

1. 適切な言語と非言語表現 (スライド含む) による明瞭さ (6 点)
2. 論理的・一貫性 (結論までが一貫したストーリーとして伝達できたか) (6 点)
3. 質疑応答における回答 (回答内容と時間, 表現の適切性など) (8 点)
4. 研究内容 (プレゼンを通じて研究内容を評価する) * (10 点)

*論文審査を担当していない審査員もプレゼン内容を通じて研究内容 (論文) を評価する。尚, 審査員は「論文審査項目」を参考とすることが望ましい。(※部分は学生にはオープンにしません)

以下の行為は減点の対象となる場合があるので注意すること

- ✓ 論文提出後に追加した文献やデータをプレゼン内で明確に提示していない場合
- ✓ プレゼンの時間を守らない場合
- ✓ プレゼンファイル (動画も含む) の提出が遅れた場合
- ✓ 主催校, 審査員の指示に従わない場合
- ✓ 尚, 機器や通信の動作不良によるアクシデントは減点対象とはならない

4) 審査員の配置

- 各審査員の持ち点は 20 点 (決勝は 30 点) とし, 全審査員の平均点をプレゼン点とする
- 午前の部では各予選会場に 2 ないしは 3 名の審査員を配置する
- 午後の部では全審査員が審査を担当するが, 自身のゼミの審査は行わない

5) 質疑応答における特別ルール (オンライン用)

- プレゼンテーションにおける司会者は主催校の学生が担当する。
- 質問希望者は「挙手機能」を使って質問希望であることを司会に伝える。司会者は手が上がった順に指名し, 質問者がマイクをオンにして質問する。最初に所属ゼミと氏名を発言してから質問を開始する。質問終了後, 質問者は挙手機能の解除とマイクオフを忘れないこと (※マイクのオン/オフは徹底してください)。

- ・ 質問の後に、発表者がマイクをオンにして回答する。回答の終了後、マイクオフを忘れないこと（※マイクのオン／オフは徹底してください）。
- ・ 質疑応答中、回答者がパワーポイントのスライドを画面共有しながら回答することを認める。
- ・ 大会の目的である「切磋琢磨の場の創造」の観点より、報告者の論文の質を高めることに資する質問を心がける。
- ・ 質問者は事前に論文を読み、質問を準備してくることが望ましい。
- ・ 時間内に3名程度の質問を受け付けられるように、冗長な質問と回答は避ける。
- ・ 1回の挙手にて受け付ける質問は1問とする。
- ・ 原則として審査員は質問を行わない。
- ・ 出場学生、オブザーバーより質問がない場合に限り、審査員がコメントを述べることができる。審査員は時間の厳守を心がける。

6) 英語論文報告における質疑応答について

- ・ 使用言語は英語とする
- ・ 英語論文チームに対して質疑応答の中で1回のみ日本語で質疑応答を行う権利を与える。この権利は予選、決勝それぞれに1回とする。具体的には、英語での質問を十分に理解できない場合、あるいは英語での回答に窮する場合、「日本語で再度質問をお願いします」「日本語で回答いたします」と発言し、その質問に対してのみ日本語を使用できる。その選択権は発表者側にある。すべての質問者はまず英語で質問しなければならない。但し、日本語の理解が不自由な留学生による質問に対してはこの権利は行使できない。この新ルールは質疑応答の質を高めることを目的としている。
- ・ 日本語論文チームは英語論文チームに対して日本語で質疑応答を行うことができる（英語の使用も可）。

7) 参加者の区分

出場学生

論文執筆者（論文表紙に氏名記載のある出場チームの学生）

オブザーバー

出場学生と審査員を除くすべてのオーディエンス。具体的には出場ゼミ所属の学生（2年、3年、4年）、OBOG、オブザーバーゼミの参加学生など

以上